

方針・計画・制度のつながりは？

今年7月に「自治体改善ステツ
プアップセミナー」を開催した。そ
こで静岡県富士市と千葉県流山市
の改善担当者が当研究会の「事例



株式会社スコラ・コンサルト 行政経営デザイナー・元吉由紀子
自治体改善マネジメント研究会代表理事

本連載は「自治体改善マネジメント研究会」のメンバーが執筆しています。同研究会は自治体で改善運動を推進してきた職員と行政経営デザイナー元吉由紀子が共同で設立。実践事例情報を収集、分析し、ナレッジ化して情報発信している。2017年にNPO法人化。ホームページ、Facebook「自治体改善の輪」を運営。

第20回

部署間連携で 経営を改善する 「チーム経営研究会」

組織内に存在する各種の仕組み間
のつながりが悪い、ベクトルが合
っていない、といった本質的な要
因が浮かび上がってきたのである。
よりよくするための改善・改革の
取組みも、何のため、何をめざし

見出すことが盲点になるようだ。
このような事例は他の自治体で
もよく見受けられる。

管理部門内にある縦割りの壁

行政経営を支える仕組み同士の

つながりの悪さの原因の多くは、
所管している企画・行革・人事・
財政など管理部門の各部署が縦割
りで運営していることにあるとい
うことが、過去5年間の研究実績
から明らかになってきた。理由は、
①各仕組みの作成意図や活用策を
お互いに共有していない
②それぞれが異なるスケジュール
で管理している

③個々の仕組みの範囲内でそれな
りに改善しているため、更なる
改革必要性を感じていない

④経営の全体最適から俯瞰して仕
組み間のつながりの適否を判
断・調整できる人がない

⑤仕組みを連鎖、連動させた経験
が乏しく、得られるメリットが
イメージできない

などがあり、連携するうえでの
足並みが揃いにくい状況にある。

最強チームをつくる経営スクラム

そこで、自治体改善マネジメン

ト研究会では、次年度からこれま
で個人参加が主だった「事例研究
会」をバージョンアップして、管
理部門の複数課からチームで参加
する「チーム経営研究会」を開催
することにした。

年度前半の5月～10月に①各部
署で作成している仕組みを持ち寄
り相互理解して分析する。②一連
の経営システムとして運営上の問
題と全体最適でとらえた課題を発
見する。③仕組みをつなげて成し
得る経営改善策を立案する。④経
営幹部に案を共有し、年度後半か
ら即実践に向けて動き始め、翌年
度からの本格的な取組みを準備す
る。地域ビジョンの実現に向けて
効率と効果を最大化する取組みに
は経営幹部との連携も欠かせない。

組織が一体となって課題に打ち勝つ

少子高齢化、人口減が進む地域
の課題は、複雑化高度化してい
る。管理部門の経営スクラムがで
きると次は事業部門とも迅速かつ
ストレスフリーに連携しやすくな
る。庁内全体がシームレスになっ
て仕事のパスが繋がれば、組織
は一体となって地域の課題を乗り
超えられるようになるだろう。

研究会」で検討した結果（本連載
11・19回）を発表してくれた。

両者とも最初は改善の件数をど
うすれば増やせるのかが悩みだっ
た。しかし、原因を掘り下げてい
くと、方針や計画、制度など行政

て、何を重視して行うのかの基軸
を構成する仕組み同士がうまく連
鎖していないと、効果が半減した
り相殺されてしまう危険性がある。
何をやるかの目先の問題に注視し
ていると目的や方向につながりを